

は ぐ く む

## 育 夢



深く考える子 思いやりのある子 強くたくましい子

令和5年1月31日（火）

## 2回目の学校評価へのご協力、ありがとうございました

校長 三村 文 弥

冬休み前に行った学校評価の結果についてお知らせいたします。今回も、保護者・児童・教職員の三者の評価を比べることができるように、評価項目を揃えてアンケートを行いました。三者が同じように評価している項目があれば、評価にずれがある項目もあります。結果について、よくお読みになっていただければと思います。

今後の学校運営の改善に活かしてまいりますので、引き続きご理解・ご協力をお願いいたします。

令和4年度 後期学校評価結果（三者の比較）					
	保護者（22）	児童（28）	教職員（11）		
わかりやすく・楽しい	3.2	3.1	3.3	深く考える子	<p>「深く考える子」では、前期に比べて教職員と保護者・児童の自己評価に差が少なくなりました。</p> <p>家庭学習習慣と読書習慣は、全体的に低い評価となっていますが、読書に関してみると児童は3.0ポイントとなっています。保護者に比べ、子どもたちは読書をしているという自覚を持っているようです。</p> <p>家庭学習については、三者共に低い評価となっておりますが、2学期から各学級での取り組みを進めているところです。年度末を迎え、現学年のまとめの学習をしっかりと行いたいところでもあり、さらに家庭と連携して強化していきたいと考えています。ご協力、よろしくお願いいたします。</p>
学習規律・基礎基本	3.1	3.1	3.2		
家庭学習習慣	2.6	2.9	2.9		
主体的な学び	3.0	3.3	3.4		
読書習慣	2.2	3.0	3.3		
あいさつ・返事	3.3	3.4	3.1		
規範意識・やさしい心	3.5	3.3	3.3		
いじめ防止	3.3	3.5	3.8	強くたくましい子	<p>「いじめ防止」「体力向上」の児童の自己評価は3.5以上となっています。「いじめのない学校にしよう」という1学期からの取り組みの成果が表れています。</p> <p>最も向上したのは「情報発信・家庭との連携」です。保護者・教職員共に3.5以上となりました。学校ブログでの発信や休校中のオンライン学習による連携の成果と捉えています。</p> <p>「メディアリテラシー」については、前期評価の反省をふまえて2学期に取り組んできた結果、保護者・教職員共に評価が向上しています。ICT教育の土台となる部分でもありますので、引き続き取り組んでまいります。</p>
体力向上	3.5	3.6	3.8		
基本的生活習慣	3.3	3.1	3.7		
安全指導	3.3	3.3	3.6	連携	
地域学習	3.2		3.1		
情報発信・家庭との連携	3.5		3.6	資質・能力	
メディアリテラシー	3.3		3.0		
校内研修・授業改善			3.4		
学級経営の評価・改善			3.4	組織の充実	
服務規律保持			3.8		
教育目標・教育計画のPDCA			3.3	の実	<p>■ : 3.5P以上</p> <p>■ : 3.0P未満 改善を要する項目</p> <p>■ : 評価の差が0.4P以上</p>
分掌業務の連携・協働			3.6		
働き方改革			3.4		

○スキー授業で、スキー靴もスキー場や学校で保管出来ませんか？スキー靴でスキー場まで歩くのは改善して欲しいと思っています。

スキー靴の保管は、スキー場では十分な場所がなく難しいと思いますが、学校には置いていってよいこととしています。ただし、帰宅後や週末などにスキーへ行く場合には忘れないように、各家庭でも声かけしていただければと思います。

スキー場までの移動については、感染症予防やスムーズな履き替え、指導時間確保の視点などからスキー靴で行っていましたが、安全面などを考慮した結果、今季より外靴での移動に変更しています。貴重なご意見ありがとうございました。

○iPadの利用について。きちんとやっていない対応を「やってます」と保護者に伝えるのは、どのようなのでしょうか？高学年児童には責任ある発言を求めている先生が、まず、見本となる行動をとってほしいです。

前期のアンケートについての返答で、フィルタリング機能についての説明をしましたが、実際に児童がその機能を解除して使用する事例がありました。対応が不十分であったこととお詫びいたします。改めて、制限をかけ直したり児童に端末の使用法について指導したりするなどの対応をとっております。

iPad の使用法については、保護者からも改めてお声がけいただけると児童の意識も高まると思いますので、連携した指導をよろしく願いいたします。

○教科書の勉強が出来たり、先生の言うことを聞いたり、それは大人にとっての良い子であって、それだけではこれからの時代に自分で考え、自分を信じ、自分の力で生きていける人間にはならず、本当の意味での良い子ではないと思います。

先生が皆と同じ行動が出来ない子を同じようにすることを目標にする（＝本人には否定されていると感じる）ことで、他の子供達にも伝搬し、辛くなり学校にいけなくなる子もいます。

良い高校や大学に入ることは、子供が幸せになる道とは限りません。iPad を1人1つずつ与え各自勉強を出来るようにしたからといって、個々の尊重にはならないと思います。せっかくの少人数制の学校なので、子供にとって必要なものを先生が決めるのではなく、子供と共に考えていってもらえるとうれしいです。

貴重なご意見をお寄せいただきありがとうございます。ご意見にある通り、学校は、「勉強ができるいい子」を育てる場所ではありませんし、子どもたちは、学校・家庭・地域の中で様々な人と関わりながら、「自分の力で生きていける人間」に成長していくものと考えております。また、我々教職員も、身体や認知、性格などが異なる子どもたち一人一人の特性に応じた教育活動を提供したいと思っています。しかし、現在の学校教育では、限られた時間の中で学習指導要領に定められた内容（教科書の内容）を確実に教えていくことも求められています。子どもたちが自分のペースで興味あることを楽しんだり、自由に学んだりする時間や環境をたくさん提供できればよいのですが、学校という集団生活・一斉指導の中では、時間やルールに制限される場面が数多くあり、先生方も頭を悩ませています。大きな課題ではありますが、西興部小学校のよさを活かし、一人一人のニーズに寄り添いながら、子どもたちの個性を伸ばしていけるよう努めて参りますので、引き続き本校教育へのご理解ご協力をよろしく願いいたします。